

発行: 墨田区(地域活動推進課)
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎03-5608-6202 FAX 03-5608-6934 ✉KATSUDOSUISHIN@city.sumida.lg.jp



「東京都復興記念館」

関東大震災から100年、当時の被害を今に伝える



東京都復興記念館

東京都復興記念館(以下、復興記念館)は、都立横網町公園内に建つ関東大震災と東京空襲に関する博物館です。

◇関東大震災とは

関東大震災は、大正12年(1923)9月1日11時58分に発生し関東地方に大きな被害をもたらした、相模湾沖を震源とするマグニチュード7.9の大地震です。東京では昼食の準備をしていた家庭などから同時多発的に出火し、強風の影響で燃え広がった火災により東京市の約40%の面積が焦土と化しました。
墨田区も大きな被害を受けた地域で、特に陸軍被服廠跡と呼ばれ

た都立横網町公園を含む一帯は、火災と高熱を伴う竜巻である火災旋風により3万8千人以上の人が亡くなった、関東大震災における最大の被災地です。

(図1 ※赤い矢印は火災動態を、緑の数字は時刻を表す。)

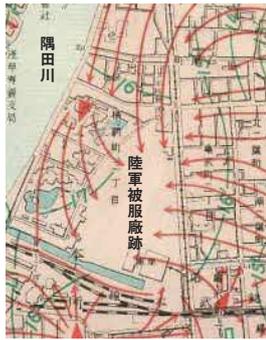


図1 陸軍被服廠跡周辺の火災動態図

東京市は衛生上の理由から、震災翌日の9月2日に被服廠跡の遺体をこの場で火葬することを決定します。火葬は9月5日から15日にかけて行われ、横網町公園の敷地内に遺骨を安置するための仮納骨堂が建てられ、慰霊のために多くの参拝者が列を成しました。

◇設立の経緯

関東大震災最大の被災地であり犠牲者の慰霊の場として唯一無二の場所である陸軍被服廠跡に位置する横網町公園の敷地内に、昭和5年(1930)、慰霊施設として

建築家伊東忠太の設計による震災記念堂(現・東京都慰霊堂)が建設されました。震災記念堂は防災慰霊、社会教化を骨子としており、社会教化の具体案として資料を堂内に展示する予定でした。しかし、市民にも呼びかけ収集した資料が集まりすぎたため、展示専門の付帯施設として昭和6年(1931)に復興記念館が建設されました。

(図2 ※震災後に慰霊公園として建設された横網町公園の全体図)



図2 震災記念堂鳥瞰図

建設当初は寄贈資料および震災復興展覧会(1924年)、帝都復興展覧会(1929年)、天覧帝都復興記念展覧会(1930年)に出品された資料を含む2016点が収蔵され、そのうち907点が展示されました。戦後の昭和26年(1951)から震災に関する資料の展示も行い、現在では約1万7千点の震災、戦災に関する資料

を収蔵し、600点以上の資料を展示しています。

地震や火災の爪痕を残す被災物(金属やガラスの溶塊、両国橋の名板、焼けた自転車など)の他、海外から贈られた支援物資(工具、作業服、木製車椅子など)、復興大模型、震災を描いた絵画などを展示しており、関東大震災の被害の大きさや力強い復興の様子を知ることが出来ます。

◇地域の皆様へ

関東大震災発生から100年となる令和5年(2023)9月1日に向けて、震災の被害や復興に関する展示リニューアルを行い、来館者の皆様により分かり易く関東大震災を知っていただける博物館を目指していきます。

(東京都復興記念館調査研究員 森田祐介)

【東京都復興記念館】

所在: 墨田区横網2-3-25
開館時間: 9:00~17:00
(ただし入館は16:30まで)
休館日: 毎週月曜日・年末年始
入館料: 無料

HPはこちら→





本所防災館

～ 防災知識を学び、 地域の防災行動力向上につなげる～ 「東京消防庁 本所防災館」



すみだ防災100
プロジェクトロゴ

◇設置目的

災害大国日本で暮らす私たちは、幾度となく繰り返される災害から多くの教訓を学びました。いかに科学技術が発達しようとも「自然災害」を予知し、発生を防ぐことは困難です。

本所防災館では、都民（区民）の皆さんの安全な暮らしを目指し、楽しみながら地震の揺れの体験、初期消火や応急救護、火災の煙からの避難方法など、防災に関する知識や技術を学んでいただく体験施設として、平成7年（1995）4月27日に開館し、これまでに累計約258万人（令和4年度末現在）の方々に御利用いただいています。

◇施設紹介

本所防災館は地震、煙、火事、暴風雨の模擬災害の体験を通じて防災知識、行動力を高める体験学習空間です。館内には自由見学コーナーと体験コーナーがあり、体験コーナーは、インスタラクターが案内するツアー方式で各種防災体験（①地震体験、②煙体験、③消火体験、④応急手当体験、⑤暴風雨体験、⑥都市型水害体験、⑦VR防災体験、⑧防災シアターの8種類）ができます。



地震体験の様子

◇関東大震災から100年 地震に対する備えを

今年は、大正12年（1923）に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。関東大震災は、マグニチュード7.9、最大震度7相当推定、死者・行方不明者約10万5千人、全壊・全焼・流失家屋約29万3千棟、東京市内だけで死者約6万9千人（うち火災による死者は約6万6千人）、阪神・淡路大震災（死者約6千4百人）や東日本大震災（死者約1万9千人）をも凌ぐ、近代日本の首都圏に未曾有の大被害をもたらした、我が国の災害史において特筆すべき災害です。その発生日である9月1日が「防災の日」と定められています。

地震が起きたときは、何よりも自分の命を守ることに、そして怪我をしないことが大切です。緊急地震速報を受けたり、地震の揺れを感じたら、まず身の安全を最優先に行動しましょう。火の始末は揺れが収まってから行いましょう。現在の都市ガスやプロパンガスは、震度5程度の揺れを感じると自動的にガスの供給を遮断するよう設定されています。

また、石油ストーブなどにも耐震自動消火装置を備えたものが普及しており、使用中の火気器具からの出火の危険性は低くなっています。万が一出火した場合でも、落ちついて対応すれば、揺れが収まってからでも十分消火することができます。慌てて火を消そうとすると、転倒して鍋のお湯をかぶるなど、けがをする可能性があり、その後の避難や隣近所で協力して行う救出・救護活動などの行動に速やかに移行できなくなります。

◇地域の皆様へ

本所防災館での体験は、町会・自治会の防火防災訓練や、学校や企業新入社員に対する防災教育などにも活用され、効果を上げていきます。これからも、より多くの都民



消火体験の様子

（区民）の皆様にご利用され、更に大きな防災の輪を広げるとともに、日頃から、防災の警鐘を鳴らし続ける施設でありたいと願っています。

（本所防災館 広報担当

北村真二

【東京消防庁 本所防災館】

所 在：墨田区横川4-6-6

開館時間：9：00～17：00

休館日：毎週水曜・毎月第3木曜日・
年末年始

入館料：無料

※御利用の際は事前に

お問い合わせください。HPはこちら



↑